

# 学校だより

埼玉大学教育学部附属特別支援学校  
令和4年度 学校通信 No.8  
令和4年12月1日



## 家族への思い

副校長 池澤 健

先日、こんなことがありました。

吉川校長が教職授業で家庭科コース4年生を、本校の見学に連れてきたときのことで。帰り際に一人の学生から「こちらの絵を撮らせていただいてもよろしいでしょうか」と声をかけられました。

その絵というのは、本校の玄関ホールに飾られている「校歌」と題された絵です。

お話を伺うと、その学生さんのお母様が、子供のころ懸賞作文でいただいた賞金を本校に御寄附され、その寄付を使って飾られたのが、この「校歌」の絵なのだとのこと。

飾られた絵の隣の説明文を改めてよく読みますと、昭和56年(1981年)の国際障害者年の記念事業で、小学5年生だったお母様が、当時本校に通っていた弟さんのことを書いた作文が入賞したこと、その賞金で「校歌」と「しいのき林」にちなんだ壁画を画家に依頼して制作されたものだ、ということが確かに書かれています。



町田二郎 作「校歌」

「その絵が飾ってあるはずだから見ておいで、と言われてきたんです。」と言ってその学生さんはスマホで写真を撮っていました。吉川校長もそんなつながりがあるとは知らず驚かされていました。

約40年の時を超えてのめぐりあいです。作文を書いた少女のお子さんが埼玉大学の学生になり、家庭科コース4年生として吉川校長の授業に。家庭科の学生の見学は吉川校長の初めての試みでしたので、学年が違っていれば出会えなかったかもしれません。本当に奇跡的なめぐりあわせでした。

その作文には、どんなことが書かれていたのでしょうか。養護学校に通う弟さんへの、どんな思いが綴られていたのでしょうか。障害者への理解をこれから広めていこうという時代でしたから、今よりも厳しい現実があったらと想像します。しかし大切な「家族への思い」は、今も昔もきっと変わらないのではないかな、そんなことに思いをめぐらせたエピソードでした。

まもなく学習発表会が行われます。子供たちは今年も、友達や先生と一生懸命に練習に取り組んでいます。御家族の皆様のご応援よろしくお願いたします。御来校の折にはぜひ玄関に立ち寄り、作品に込められたストーリーに思いを寄せてみてはいかがでしょうか。

## お知らせ

### 【学習発表会に向けて】

今年度は2年ぶりに体育館での発表となります。感染対策のため今年も学部ごとの参観とさせていただきます。参観人数の調査に御協力ください。また参観時には会話を控えるなど、ご家族の皆様にも感染対策への御協力をお願いいたします。

なお今年度、子供たちは総合練習の際に他学部の発表も見合えるように計画しています。他学部の発表を見合うことで、子供たちにも小中高12年間の成長を感じてほしいと願っています。

### 【新型コロナウイルス感染症対策について】

感染拡大の第8波が懸念されています。本校では引き続き基本的な感染対策を徹底して教育活動の継続に取り組んでいます。また、感染判明時には学校での接触状況を踏まえ感染拡大防止に係る情報のみ関係する方にお伝えしております。保護者の皆様におかれましても、児童生徒の体調不良時や、御家族に感染症状がある場合には登校をお控えいただくなど、今後とも感染拡大の防止に御理解と御協力をお願い申し上げます。